

所属・氏名（ 保健医療学部 救急救命学科 氏名：吉川孝次 ）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学会関連) JPTEC 各コースの開催運営と 指導	共同	2003年3月～ 現在	・JPTEC プロバイダ ー養成コース ・JPTEC インストラク ターコース	日本救急医学会公認の病院前外傷処置各種標 準化コースの開催運営や指導を170回以上実施 (プロバイダー養成コース、インストラクターコー ス、プロバイダー更新コース)
2 (学会関連) MCLS 各コースの開催運営と 指導	共同	2012年5月～ 現在	・MCLS 標準コース ・MCLS インストラク ターコース ・CBRNE コース	日本災害医学会認定のコースの企画、開催及び 指導を65回以上実施 (多数傷病者対応標準化コース、CBRNEコース)
3 (発表) 修正下顎挙上の示指法が母 指法に比べ確実性が高く、難 易度が低い要因についての 検討～下顎角圧について～	共著	2020年8月	第23回日本臨床救 急医学会総会・学術 集会	修正下顎挙上法の下顎角圧は母指法に比べ示 指法の方が有意に高く、安定した圧力が作用し た。抄録集:454頁 (吉川孝次、安田康晴、二宮伸治、坂口英児、 友安陽子、津村龍、山本弘二)
4 (発表) 修正下顎挙上の示指法が母 指法に比べ確実性が高く、難 易度が低い要因についての 検討～下顎角圧について～	共著	2020年8月	第23回日本臨床救 急医学会総会・学術 集会	修正下顎挙上法の下顎角圧は母指法に比べ示 指法の方が有意に高く、安定した圧力が作用し た。抄録集:454頁 (吉川孝次、安田康晴、二宮伸治、坂口英児、 友安陽子、津村龍、山本弘二)
5 (発表) 重症外傷傷病者に対する修 正下顎挙上法の検討	共著	2021年5月	第37回日本救急医 学会中国四国地方 会	重症傷病者に対する修正下顎挙上法は示指法を推奨 すべきである。抄録集:40頁 (吉川孝次、安田康晴、二宮伸治、佐々木広一、坂 口英児、友安陽子、津村龍、山本弘二)
6 (学術論文) 重症外傷傷病者に対する修 正下顎挙上法の検討	共著	2021年1月	日本臨床救急医学 会雑誌 24(1)	重症傷病者に対する修正下顎挙上法は示指法 を推奨すべきである。 総ページ:5 ページ、日臨救急医学会誌 Vol.24、 No.1,2021、28-32頁
7 (学術論文) 救急活動時の汚染拡大と手 袋交換による感染拡大防止に 関する研究と対策	共著	2022年2月	日本臨床救急医学 会雑誌 25(1)	傷病者搬送前、車内収容前、病院搬入前に手 袋交換を行うことで汚染伝播範囲を減少させるこ とが可能であり、最低でも3回の手袋交換を推奨 する。 (佐々木広一、安田康晴、山本弘二、吉川孝次、 友安陽子、坂口英児) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
8 (発表) 感染防止用ゴーグル形状別 飛沫防護効果の検討1・2	共著	2022年5月	第25回日本臨床救 急医学会総会・学術 集会	フェイスシールド小の単体では飛沫防護効果が 低い、メガネとフェイスシールド小の併用で防 護効果が高まることが示唆された。 (安田康晴、佐々木広一、坂口英児、山本弘二、 吉川孝次、友安陽子) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能

令和 4 年 5 月 31 日 現在